



地域の魅力や 特色生かして

本年度の一地区一自慢コンテスト表彰式を、弁天ワッセに合わせて、このように盛大に開催できますことを、大変うれしく思います。

この事業は、各地区の魅力を再発見し特色を生かした地域づくりを進めるため、昨年度から実施しています。本年度は「楽（らく）」をテーマに募集したところ、各地区から74件の応募がありました。厳正な審査の結果、「自慢大賞」や各賞が決定しましたが、受賞した地区の皆さんはこの受賞を励みに、その「自慢」を次の世代に引き継いで、これからも地域の力を存分に発揮していただきますようお願いいたします。

平成20年3月には、全国都市緑化ぐんまフェアを控え、清流や緑豊かな自然に恵まれている本市の地域特性を再認識するため、来年度のテーマは「花・緑」にしたいと考えています。皆さんぜひ、奮って応募してください。

本事業の実施に当たり、格別なご支援、ご協力をいただいた自治会、審査員の皆さんをはじめ関係各位に深く感謝します。
(一地区一自慢コンテスト表彰式、12月3日、弁天通り)

ふれあい広場

まえばし シティフラッシュ



十二月四日、市議会庁舎で議場コンサートが行われました。永明小合唱団の児童四十七人が、この日のために練習を重ねた「どじょっこふなっこ」など五曲を披露。議員や傍聴に訪れた人から、大きな拍手が送られました。

議場でコンサート楽しむ



エイズの予防啓発

12月1日は「世界エイズデー」。まん延防止と差別や偏見をなくすことが目的です。11月30日から2日間、市役所1階市民ロビーで、啓発パネルや学校の教材などを展示。エイズを分かりやすく紹介し、理解を広く呼び掛けました。

琴や歴史に触れて

11月26日、市指定文化財史跡の龍海院で、琴の演奏会や前橋藩主酒井家歴代の墓地見学などが行われました。78人の参加者は、講堂に響く繊細な琴の音色や酒井家まつわりの話に耳を傾けながら、歴史ロマンに浸っていました。



南橋地区

交流深める しめ縄作り

下細井町の県営住宅広場で十一月二十五日、三世代交流が行われました。核家族が進む中、世代間交流を深めるため開催。子どもから高齢者まで多くの人が参加しました。しめ縄作りのコーナーでは、子どもたちが年配者の手慣れた技にびっくり。作り方を丁寧に教わると、親子で楽しみながら、わらの束をねじる作業に取り組みました。村上孝夫自治会長は「年配者も伝承できる喜びを感じていて、今後もこのように住民たちの交流を深めていきたいですね」と話していました。



音楽を通して 触れ合い図る



桂萱地区

十一月十八日、三俣町一丁目の公民館で「ふれあいコンサート」が催されました。町出身の音楽家などを招いて、音楽で町内の触れ合いを深めることが目的。今回で三回目を数え、十四人のアコーディオン奏者による懐かしの曲や童謡の演奏を聴こうと、会場は六十人もの観客でいっぱい。次々とリクエストも寄せられ、観客が口ずさむと美しいハーモニーが響きわたりました。大沢洋自治会長は「音楽が好きな人が多い町なので、毎年続けていきたいですね」と話していました。

「畳の文化」を守らなければ

市技能功労者に選ばれ、先月十四日に表彰された。「推薦されたとは聞いていない」と、とても恐縮している



市技能功労者に選ばれた
荒木 栄次さん(65)
亀泉町

昭和三十二年、当時の大胡町の畳店で五年間の住み込み修行に。これが半世紀となる職人生活のスタートだった。「夏は三時半起き。掃除などの家事や畑仕事の手伝いもしました。先輩がいろいろ教えてくれなかったら、続かなかったかもしれない。四年たち、技術はともかく能率が親方と同じになると自信も。後は技術を磨こうと、東京で修行した親方の息子さんからも教えを受けたんです」三十九年に独立開業。四十四年に結婚し、翌年、現在の場所へ店を移した。県畳協同組合前橋支部長を八月まで務め、この間、一級畳技能士の資格取得講習会で指導するなど、後進の育成にも当たる。「店で働く次女の夫に一月から経営を任せる予定。需要が減る中でも畳の文化を守り続けてほしいです。洋室に合う正方形の縁なし畳、フロアリングの上に敷く暖房付きの畳など、新しい製品も開発され、多くの皆さんに使ってもらいたいと思います」これからは時間を作り、妻と一緒に旅行へ行くことが楽しみと、笑顔で語った。